

## これって個性？ 発達障がい？

どんな人にも得意なこと・不得意なことはあります。例えば、片付けは得意だけど料理は苦手、見て覚えるのは得意だけど聞いて覚えるのは苦手、アイデアはたくさん出せるけど計画するのは苦手など、人によって様々な個性を持っています。

個性と発達障がいはグラデーションの様で、明確に区別するラインはありませんが、次のような特性があります。

発達障がいの方は「得意・不得意の幅」が極端に大きく、そのために日常生活で困ったり、生きにくさを感じることに繋がりがやすいと言われています。

例えば、「ある特定の分野だけ極端に苦手」で「そのことで本人も周りの人も日常生活で困っている」場合は「得意なこと・不得意なことを知ること」「得意なことを褒め（褒められ）て自信をもつこと」「不得意なことは専門家の力を借りて、直すのではなく生きやすくすること」が大切です。

具体的には次のようなことです。



- ・ 診断名にこだわりすぎるのではなく、相手の特徴を理解し、触れ合い、一緒に楽しむことが大切です
- ・ 一生懸命な親ほど、苦手なところやできないところは目につきやすく、叱ったり注意することが多くなります。
- ・ 苦手なことを強いるのではなく、できるようになったことを褒める方が子どもは伸びます

「乳幼児・学校保健講演会（深川市）」  
旭川厚生病院小児科 沖 潤一先生資料より抜粋

ご自身のこと、お子さんのこと、ご家族のことで気がかりなことがある時は保健師までご相談ください。

インターネットで情報を検索される時は不確かな情報や誤った情報が掲載されている場合もありますので、情報源をよく確認するようにしましょう。

発達障がいについてはこちらをご覧ください

【発達障害情報・支援センターホームページ】

<http://www.rehab.go.jp/ddis/>

※発達障害情報・支援センターのホームページは、収集・分析した正確かつ信頼ある情報を各ライフステージにおいて、いろいろな立場の方に利用しやすい形で提供しています。



※この記事に関するお問合せ先 保健福祉課（健康グループ） 電話 3 5 - 2 1 2 0